

公益財団法人軽井沢美術文化学院

平成 30 年度事業報告書

ルヴァン美術館及びアトリエ・ルヴァンの運営（公益事業）

1. 美術館の運営（公益事業）

2018年6月9日（土）～11月4日（日）の間、『西村伊作とその子供たち 軽井沢での暮らし 伊作の初期作品』を開催した。叔父の大石誠之助とともに大正期から日本人の生活近代化に取り組み、生活の改善や教育・住宅の改革を説いてきた西村伊作は、当時の人々の熱い支持をあつめた。伊作には9人の子供があり、彼が新宮に建築した自邸、旧軽井沢の西村別荘、そして東京に創立した文化学院は自分の教育の理想を実践するための場となっていた。やがて成長した子供たちはみんな、留学が珍しかった戦前に独自の考えをもって海外へ向かっていく。

企画展では西村伊作とその子供たちの新宮と軽井沢での暮らし、および成長してからの子供たちの活動を写真とパネルを中心に、伊作の新宮時代の絵画作品と陶器作品を展示、そして2018年に新宮市の名誉市民として表彰され名誉回復した大石誠之助の紹介も行った。

1) 企画展

〈第一室〉は西村伊作に関する紹介と作品を主に展示。彼の生い立ち、手がけた建築、交流のあった芸術家たち、子供の教育と文化学院について写真と展示パネルで紹介。大逆事件で処刑されたが2018年に新宮市の名誉市民として表彰された伊作の叔父、大石誠之助に関しても紹介した。

〈第二室〉は新宮市の西村記念館で所蔵している伊作の絵画と当館で所蔵している新宮時代の絵画と陶器を展示。新宮、那智、勝浦およびその近郊の風景画が中心であった。

〈第三室〉は伊作の9人の子供たちの紹介と作品、そして子供たちの広い視野をはぐくんだ軽井沢での暮らしをパネルと写真を主に紹介、展示した。自邸、軽井沢、文化学院は伊作の教育の理想を实践する場であり、その環境で育った子供たちは成長してからそれぞれ海外へ向かい世界を見聞し、おのおの表現活動を身につけていった。また戦前の軽井沢の西村別荘は一族とゆかりのある友人、外国人が交流するサロンのような場であり、写真からは彼らの豊かな避暑生活がうかがえる。

8月4日には『思い出の軽井沢』というトークショーを第三室で開催。九和・西村・バル、羽仁進とヘンリータマキの3名をゲストスピーカーに呼び、戦前の軽井沢についてそれぞれ

れの思い出を語ってもらった。トークは好評で当日は60名以上の参加者があり、この日の入館者数は82名、2018年の最高入館者数であった。

このほか、9月23日には熊野芸術セミナーの参加者が来館したので入館者は81名、11月3日は発地のウォーキングイベントでルヴァン美術館が拠点の一つとなったので入館者は80名だった。

入館者数は1995名（昨年2397名）。

西村一族のみをフィーチャーした企画では動員の力が足りないと思われる。SNS等をつかった広報に工夫が必要と思われる。

2) 春のアートフェスティバル (第11回) 4月29日～5月6日

春は4月29日より5月6日まで、地域の高校生以下の学生、児童の絵画、書、工作などの応募作品を展示した。展示された作品を撮影し小冊子を作製して、応募された皆さんに返送、好評であった。

期間中は入館料を無料とし、227名（昨年278名）の来館者がありカフェとショップの売り上げは約230千円で昨年より減少した。

3) ローズフェスティバル 6月17日～7月1日

恒例の、バラとお茶の会「ローズフェスティバル」は6月17日から7月1日まで開催。2017年度からカフェ利用者1名につき100円割引、255名（昨年240名）が割引対象となった。来館者は154名（昨年114名 カフェだけの利用者があるので来館者数と割引対象者の数は異なる）。

4) 秋のアートフェスティバル (第13回) 10月7日

10月7日（日）にスケッチ大会と体験教室を開催（昨年は2日間のフェスティバル）。44名のスケッチ参加者（昨年76名）には例年通りクレヨン、スケッチブックをプレゼントした。体験教室は中嶋祐子先生によるトールペイント体験教室をアトリエで開催。この日は入館無料とした。

春、秋のアートフェスティバルは地元の小、中、高の学生と保護者の方々にすっかり定着して、毎年の楽しみとなっている。

5) シャッターヌ展 9月30日～10月7日

ルヴァンスタッフで創作活動をしている人たちの展覧会を秋のアートフェスティバル一週間前からアトリエで開催。洋裁、写真、ドールウェア、木工、絵画、抽象画、トールペイン等の作品を展示した。

6) サマーコンサート

以下のコンサートを開催した。

- ① 8月5日(日) 近藤和花 ピアノコンサート(第11回)
- ② 8月11日(土) ボサノバ/サパトス(木村純・三四郎)(第14回)
- ③ 8月12日(日) アンサンブル・モンソロ **Ensemble MONSOLO**
本田早美花(ヴァイオリン) エマニュエル・クリスチャン(ピアノ)
- ④ 8月25日(土) 寺田悦子・渡邊規久男/四手連弾ピアノコンサート
- ⑤ 9月1日(土) ヴァイオリン、チェロ、ピアノのトリオ室内楽
ポーマン・ベアンテ(チェロ) 矢崎さくら(ピアノ)
イスラエリヤン・カレ(ヴァイオリン)
- ⑥ 9月8日(土) 一噌幸弘 和の笛・洋の笛・音楽の旅(第7回)
一噌幸弘(能管・篠笛他) 高木潤一(ギター)
勝海登(シテ方) 吉見征樹(タブラ)

④⑤⑥は軽井沢ペット福祉協会チャリティーコンサートとして売り上の一部を寄付した。

2. アトリエの運営(公益事業)

美術館の附属施設としてアトリエ ルヴァンを新設、2018年7月に登録、認可された。さまざまな美術/陶芸/工芸等のワークショップおよび公演、講演などを開催することを目的とする。イーゼル、スツール、音響設備、陶芸用の備品や電気窯等もそろえ、財団が企画するイベントの他に、貸し施設としても利用可能とした。

2018年は以下のイベントを開催した。

① 陶芸教室 3回開催

6月30日・7月1日 参加者13名

8月18日・19日 参加者41名

10月13日 参加者11名

講師：森田高正先生 成形を主にする初心者向けの教室、成形後の作品はあずかってルヴァンにある電気窯で素焼き、本焼きをして参加者に届ける。地元の方で毎回参加して下さった方もいて、地域に根ざした陶芸教室としての展開の見込みもあり得る。

② 昼下がりのサイレントムービー 7月22日

活動弁士：縁寿 ピアノ即興演奏：神崎えり 上映作品：『チャップリンの冒険』『椿姫』

参加者19名 関係者の勧めによる参加者が多い。両面全面ガラス張りのアトリエで白黒映画を投影する条件があまりよろしくなかった、開催時期と開催時間を工夫すればよい会

場である。強すぎる空調や座席の硬さにクレームもあったが、上映は楽しんでいただけたようである。

③ フラワーアレンジメント教室 7月29日

講師：捧泉美 昨年までカフェで開催していたイベントをアトリエで開催。15名の参加者があった（昨年は11名）。

④ 木工教室 8月10日～15日

講師：永島秀之 昨年まで庭でテントをはって開催していたイベントをアトリエで開催（猛暑対策）。鳥の巣箱づくり。34名の参加者があった（昨年は31名）。

⑤ VOICE 肉声 vol.1 黒川紀章 9月9日

講師：岡山理香先生（東京都市大学）文化学院公開講座録音を使った講座
参加者29名 建築関係者が東京から団体で参加。黒川紀章のもとで働いた人もいて、録音は好評だった。講座の後半の質疑応答も割と盛り上がった。

⑥ 熊野芸術セミナー 9月23日

毎年新宮で開催されている熊野芸術セミナー、今年は70名が新宮よりバスで長野方面への芸術ツアーでルヴァンにお立ち寄り。アトリエではパステルづくりを体験。その後庭でスケッチをして美術館を見学。

⑦ ウィンターオーナメント作り 10月12日

講師：大谷香先生
参加者20名 ルヴァンの庭の植物を主に使ってハロウィン、クリスマス、お正月と使える飾り（スワッグ）をつくる。大谷先生のお花の教室の生徒さんが多く東京から、また地元の方も多く参加。

初年度でまずは地域の方、避暑の方に場所と活動を周知していただくことを優先した。アトリエで開催したイベントで採ることができたアンケート結果からは、100名強の参加者があり、そのうち約半数の51名がルヴァンに初めてやってきた、と回答。新規のリピーターを増やすきっかけになればと願う。

⑧ 貸し施設としての利用

Ratta Rattarr がコレクション展示に10月26日から11月2日の7日間利用した。

イベント参加料と会場貸し出し料合わせて315千円の売り上げであった。

3. 付帯宿泊施設の運営（公益事業）

これまで学生寮として独立した公益事業として運営してきたが、2018年3月の文化学院閉校にともない、美術館付属の宿泊設備と登録変更し認可された。

3つあった4人部屋をシングル1部屋とツイン2部屋に改装し2階にもトイレを増設。美術館での演奏家、アトリエの講師が主な利用者となる。卒業生、文化学院関係者、一般の方の宿泊利用も受付こととした。本年度は講師、演奏家の方々に利用いただき利便性が良く好評であった。

収益事業

4. ショップ、カフェの運営（収益事業）

ショップ売上は1,256千円で昨年度1,580千円から約2%の減少となったが、カフェの売り上げは3,310千円で昨年の3,102千円より6%増加した。美術館庭園の雰囲気癒しの空間として来館者を惹きつけており、カフェメニューも味と値段とも好評で、新しいものも加わっているためリピーターが順調に増加している。収益事業の売り上げ合計は4,566千円で昨年の4,686千円から微減であった。

5. その他

代表理事の交代

石田研吾氏が代表理事を退き、新たに村上博氏が理事に就任した。長野県への届け出、登記いずれも終了した。

他の団体への寄付

国の重要文化財に指定されている新宮の西村記念館については、「西村記念館を守り伝える会」に本年度も引き続き維持、保全のため7年目の10万円の寄付をした。また新たに同市が保全のために購入した西村伊作が建築したチャップマン邸についても、維持、保全のため昨年度に続き10万円の寄付を行った。

以上